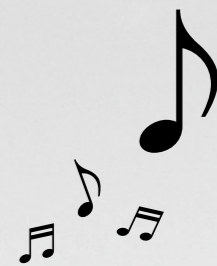


琵琶湖周航の歌 誕生100年

「われは湖の子 さすらいの」



1番 われは湖の子 さすらいの
 旅にしあれば しみじみと
 のぼる狭霧や ささなみの
 志賀の都よ いざさらば

2番 松は緑に 砂白き
 雄松が里の 乙女子は
 赤い椿の 森陰に
 はかない恋に 泣くとかや

3番 浪のまにまに 漂えば
 赤い泊火 なつかしみ
 行方定めぬ 浪枕
 今日は今津か 長浜か

4番 琉璃の花園 珊瑚の宮
 古い伝えの 竹生島
 仏の御手に いだかれて
 ねむれ乙女子 やすらけく

5番 矢の根は深く 埋もれて
 夏草しげき 堀のあと
 古城にひとり 佇めば
 比良も伊吹も 夢のごと

6番 西国十番 長命寺
 汚れの現世 遠く去りて
 黄金の波に いざ漕がん
 語れ我が友 熱き心

1917年(大正6年)、今津で誕生した「琵琶湖周航の歌」が、今年100周年を迎えます。
 美しい琵琶湖の風景から生まれた「琵琶湖周航の歌」は、今日まで多くの人の心を魅了し、歌い継がれてきました。

誕生秘話

「琵琶湖周航の歌」は、旧制第三高等学校水上部(現在の京都大学ポート部)に所属していた小口太郎が、琵琶湖周航の2日目に今津の宿でクルーにこの詩を披露し、仲間が当時学生の間に行っていた吉田千秋作曲の「ひつじぐさ」の曲にのせて歌ったのが始まりです。

作詞者と原曲者は、互いに顔を合わすことなく、この歌を世に残すために生まれてきたかのように若くして亡くなりました。

偶然の出会いによって高島市

で誕生したこの歌は、時代を超え、多くの人々の心の中で今も生き続けています。

原曲者



よしだ ちあき
吉田 千秋
 (1895～1919)
 新潟県出身

作詞者



おぐち たろう
小口 太郎
 (1897～1924)
 長野県出身

歌は、時を超えて...

100周年の節目に今一度、「歌」とともに「琵琶湖の美しさ」について見つめ直す時ではないでしょうか。

周航当時、琵琶湖がとてもきれいであったからこそ、この歌ができたとも考えられます。この歌には、琵琶湖の美しさがいっまでも次世代へ継がれるようにという願いがこめられているのではないのでしょうか。

周航には旅立ってまた元に戻るという意味もあり、「琵琶湖周航の歌」100周年は新たな歴史の始まりと言えるのかもしれない。



今津中学校での講演会。
 次世代に歌を伝える活動を続ける「琵琶湖周航の歌を伝承する会」

新たな歌の魅力を発見しに
琵琶湖周航の歌資料館へ

平成10年「琵琶湖周航の歌」誕生の地として高島市今津町に「琵琶湖周航の歌資料館」が開館しました。

館内では、歌の経緯や作詞者や原曲者に関する資料のパネル展示のほか、周航当時の町の様子なども写真展示しています。

中でも1番の人気コーナーは、たくさんの歌手や演奏家による「琵琶湖周航の歌」試聴コーナーです。100周年を機会に、琵琶湖周航の歌資料館へぜひお越しください。



資料館職員

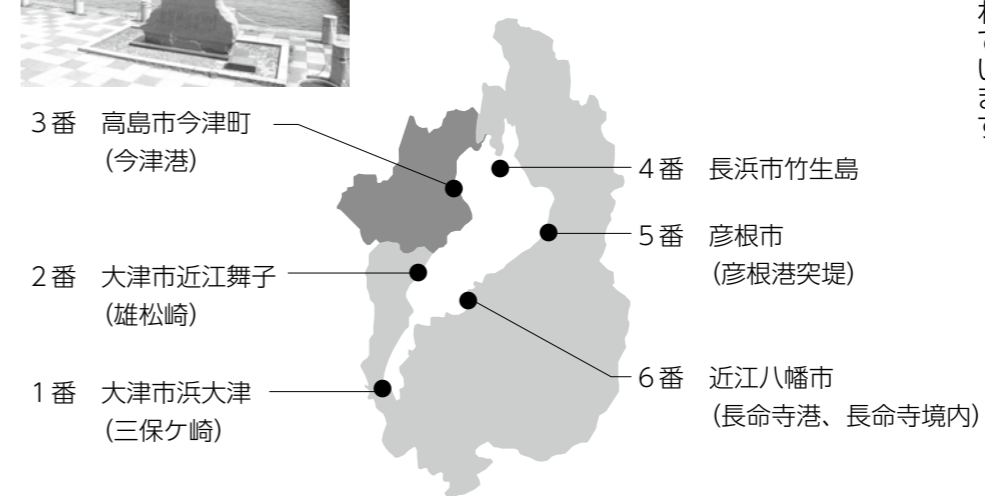


所在地／高島市今津町中沼1丁目5-7
電話／(22)2108
開館時間／9時～17時
休館日／月曜日
(月曜日が祝日の場合、翌平日休館)



～歌碑めぐり～

※関連する歌詞番号と歌碑の位置を掲載



高島市の湖の玄関口である今津港には、この歌の歌碑があります。赤御影石で作られた歌碑には、歌の歌詞1番から6番までが刻まれています。県内には、6か所7つの歌碑が緑の地に建立されています。

各地に残る歌碑

琵琶湖周航の歌誕生100周年記念
「琵琶湖周航の歌」音楽祭合唱コンクール

【開催日】6月25日(土)10時～(予定)
【会場】高島市民会館 【入場料】一律500円

コンクールへの参加合唱団募集中!

- ▶参加資格 8人以上の合唱団
- ▶募集数 25団体(定数になり次第締切)
- ▶演奏曲目 課題曲「琵琶湖周航の歌」(作詞:小口太郎 原曲:吉田千秋)と自由曲(自由曲の曲数は問いません)
- ▶演奏時間 課題曲と自由曲をあわせて8分以内
- ▶参加料 一般1万円 / 児童合唱団・小学校・中学校・高等学校 5千円
- ▶募集締切 2月28日(火)
- ▶申込方法 各文化ホールと公民館に設置している参加申込書に必要事項を記入のうえ、下記まで提出してください。

【申込・問合せ先】
琵琶湖周航の歌記念事業実行委員会事務局
(藤樹の里文化芸術会館) ☎(32)2461

あなたも参加しませんか
音楽祭合唱コンクール

高島市では、高島市民会館で琵琶湖周航の歌音楽祭合唱コンクールを、この歌が生まれた6月に毎年開催しています。

このコンクールは、「琵琶湖周航の歌」を広く後世に引き継ぐことや、青少年に郷土の曲として知ってもらいたい故郷への誇りを持っていただくことを目的に始めました。

現在では、県内をはじめ近畿圏内、北陸、四国、九州、関東まで日本全国から参加団体が集まる合唱コンクールとなっています。

今年、100周年記念として次のとおり開催します。大人から子どもまで楽しめます。あなたもステージの上で、「琵琶湖周航の歌」を歌ってみませんか。ご応募お待ちしております。

さまざまな人に歌われています♪

加藤登紀子さん、
～Lefa～さんをはじめ、
60組以上の方にカバーされています。

いろんなところで流れています♪

- ・高島市の防災行政無線 BGM
- ・琵琶湖大橋 メロディーロード
- ・NHKテレビ番組「おみえ630」エンディング曲



歌が誕生した当時、周航に使われていた艇
(平成10年4月復元)

～Lefa～と一緒に歌いましょう♪

「琵琶湖周航の歌」ミニコンサート

日時 2月25日(土)13時～
場所 琵琶湖周航の歌資料館
入場無料

「ひつじぐさ」

「琵琶湖周航の歌」のメロディーは、吉田千秋作曲「ひつじぐさ」(1915年発表)を原曲に用いて誕生しました。「琵琶湖周航の歌」の100周年に先駆けて、千秋の出身地新潟市で、平成27年(2015年)に「ひつじぐさ」発表100年をお祝いされました。

市内で自然保護に取り組む「環境を守るいまづの会」から、平成13年(2001年)に吉田千秋(原曲者)の故郷新潟県新潟市へ、また平成15年(2003年)には小口太郎(作詞者)の故郷長野県岡谷市へ、歌にゆかりの「ヒツジグサ」の株が贈られました。

「環境を守るいまづの会」では、6月の琵琶湖周航の歌100周年記念音楽祭合唱コンクールを迎えるまでに、「ヒツジグサ」でいっぱいのおまけにすることを目標として、準備を進めています。

花期 6月～10月



未の刻(午後2時)頃に開花することから「ヒツジグサ」と名づけられました。

ヒツジグサはきれいな水でないと育ちません。琵琶湖周航の歌誕生の地として、琵琶湖をきれいにしていくという気持ちをもってほしいと思います。また、この歌を通じてふるさとを愛してほしいです。



環境を守るいまづの会
会長 松見 茂さん



高島市の宝として
全国へ発信

高島市で誕生した「琵琶湖周航の歌」を次世代へ大切に繋ぎ、これから先も多くの皆さんに愛される高島市の宝として、全国へさらなる発信を図っていきます。

観光振興課
☎(25)8040